



北方領土隣接地域における地域一体となった啓発促進策の
検討に関する有識者会議

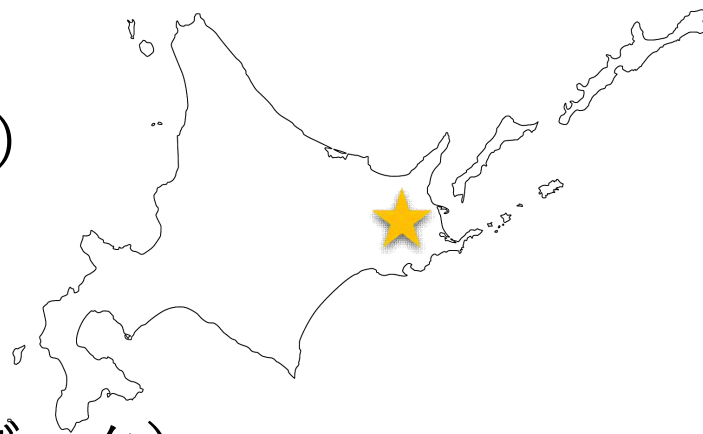
北方領土問題に対する 中標津町の取組について

中標津町 総務部 政策推進課

中標津町のプロフィール

北海道の東部、世界自然遺産知床半島の基部に位置し、酪農と商業が盛んな街。

- 人 口 21,951人 (R7.3月末)
- 世帯数 11,427世帯 (R7.3月末)
- 面 積 684.87km²
- 気 温 最高 34.4℃
最低 -22.0℃ (2024データ)
- 特産品 牛乳、チーズ、じゃがいも、標津羊羹
- 観光地 開陽台、養老牛温泉、格子状防風林



北方領土問題に対して

1. 中標津町の取り組み
2. 町民の北方領土問題に対する意識

1. 中標津町の取り組み

①署名活動

千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部との協働により実施

- 中標津空港（常設）
- 夏祭り会場（8月）
- 冬まつり会場（2月）
- 全職員・関係団体に向けた署名依頼



夏祭りの署名活動



冬まつりの署名活動(町議会議員が協力)

1. 中標津町の取り組み

②パネル展

- ・主に強調月間（8月・2月）に開催
- ・北方領土問題とは何かの基礎知識や、戦前の北方四島の様子、町の取組などを展示



役場庁舎



総合文化会館

1. 中標津町の取り組み

③情報発信

- 中標津町公式HP
- 広報紙
- SNS（中標津町のツイッター・フェイスブック）
- FMラジオ（FMなかしべつ放送）
- 新聞記事（イベントの周知）
- 災害対応型自動販売機電光掲示板
- 公用車へのマグネットシート張り付け



1. 中標津町の取り組み

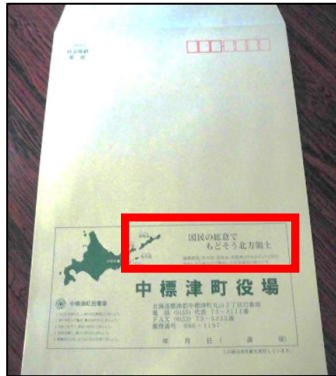
④その他



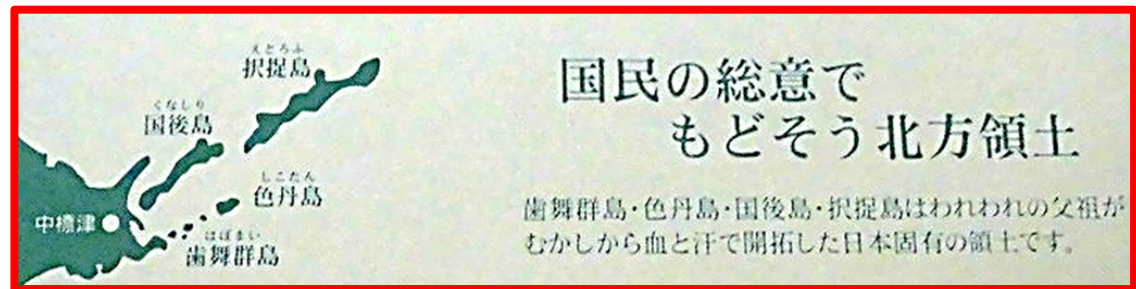
啓発看板
(町内12ヶ所)

1. 中標津町の取り組み

④ その他



役場の封筒



夏祭りの
提灯・浴衣



町民の北方領土問題に対する意識

- ・令和5・6年度の町民に対するアンケートでは北方領土問題に対する関心が下がってきている。

「北方領土問題を身近な問題として感じますか？」

【令和5年度回答】

そう感じる・どちらかといえばそう感じる 55.7%

そう感じない・どちらかといえばそう感じない 36.7%

【令和6年度回答】

そう感じる・どちらかといえばそう感じる 49.9%

そう感じない・どちらかといえばそう感じない 40.8%

※20歳以上の町民を対象としたまちづくりに関するアンケート

町民の北方領土問題に対する意識

- ・住民の意見は、ロシアによるウクライナ侵攻により変化している。

アンケート設問別記述意見抜粋(そう感じる理由)

【令和3年度】

- ・毎年毎年訴えている事に深い畏敬の念を持っています。むなしく感じる事もありますが諦めない事が希望につながります。
- ・自分のふる里がそうだとしたら、他人事ではないと思う。
- ・墓参に行っていた人を知っている。ビザなし交流の受け入れをしている人が身近にいる。
- ・根室を含めて、隣接地域としての特別な部分がある。
- ・標津に働きに行っているが、毎回島が見える。
- ・毎年北方領土返還運動に参加している。ニュースなどでも聞いたりしている為、国の問題として解決するよう努力すべきだ。

【令和4～6年度】

- ・一日も早く北方領土を、かえしてほしいと思います 漁師の人達も大変ですのでお願い致します。
- ・**ウクライナ問題**が今現在起きていて、そのロシアを1番近くに感じるのが道東地区だと思う。町として何か対策は考えているのか？
- ・**ロシアによる北海道侵攻**など、噂レベルではない現実が迫っている感じがする。
- ・**戦争が始まった**現在、又、領土問題は遅れる 墓参は続ける方が良い。
- ・**ロシアの身勝手な行動を見ると、近い北方領土からの脅威を感じる。**
- ・自分の子どもが興味をもっています 北方領土について学ぶ機会があったり、学ぶ場が中標津にあるといいなと思います。
- ・**ウクライナの戦闘**位からすぐ近くにロシアの人(**軍人**)がいる事に怖さを感じる。

町民の北方領土問題に対する意識

- ・身近な問題に感じないという意見も、ウクライナ侵攻による影響がみられる。

アンケート設問別記述意見抜粋(そう感じない理由)

【令和3年度】

- ・ニュースで見るだけという感じ。
- ・大事な問題ではあると思うが、過去の話題であると感じてしまうため。
- ・年月がたちすぎている。身近に出身者がいない。
- ・先がみえない感があるから。関心がうすれてくる。
- ・現実的に返ってこなさそう。

【令和4～6年度】

- ・道外出身として北方領土が見える景色は感動するけれど、問題としては捉える機会がない
- ・戦後80年近く過ぎても解決できないでいるので。
- ・地元産業には直接関係性は低いのではないだろうか？
- ・北方四島が返還されたら、色々な面で困ることになる、**対ロシア問題**など。返還を望まない。
- ・どんなにロシアとの関係が良好になったとしても、**アメリカが日本に関わっている以上、返還は難しいのでは**と感じる。
- ・**隣国とどう付き合ったらいいのか**というおもいを持つ。

町民の北方領土問題に対する意識

北方領土問題への理解が深まっているというよりも、北方領土を通して「ロシアへの懸念や恐怖」を感じる町民が増加している。また、領土返還への「諦め」を感じている町民も一定数いる。



「北方領土問題＝ロシアへの懸念や恐怖」とならないように、また、本来の北方領土問題が置き去りにならないように、北方領土問題の「何が問題なのか（元島民やその家族の想い、漁業問題など）」を、今だからこそ発信する必要があるのではないか。

おわりに

終戦時に北方四島に住んでいた17,291人の元島民の7割以上がすでに亡くなり、存命の方についても平均年齢は89歳と高齢化が進んでいることから、北方領土問題は一日も早く解決しなければならない問題です。

今のような状況だからこそ、より一層の国内世論の喚起が重要であり、北方領土問題に対する理解を深め、返還に向けた強い意志を世代・地域を越えて共有するため、全国の皆さんで一丸となって取り組んでいきましょう。



中標津町総務部政策推進課北方領土対策係